

1. 目的

本研究では、江戸時代から現在まで職業落語家がどのような空間で落語を行ってきたのか整理し明らかにすることを目的とする。

2. 既往研究

既往研究の調査では、CiNi論文検索で[落語][落語空間][落語 建築][落語 場][落語 会場][落語 劇場][演芸場][寄席]のキーワードで検索したところ、現在の落語が行われている場について論じられているものはなく、よって本研究に類似するものは見られなかった(2019年11月2日現在)。

3. 方法

江戸時代に落語の寄席興行が盛んであった江戸・上方・名古屋の現在の会場を調査するために、2018年9月から2019年8月の1年間の東京都・大阪府・愛知県の落語会・寄席の会場を以下の資料を参考に集計した。

- 演芸専門誌「東京かわら版」(東京都)
- 演芸情報紙「よせびっ」(大阪府)
- 「東海落語往来オンライン」(愛知県)

また、会場名をグーグルで検索し、各会場の公式ウェブサイトなどで会場のようすを確認、会場の本来の用途に注目して以下のように分類した。

【表1】落語会・寄席の会場分類	
分類	説明
劇場・ホール	演劇・映画などを観客に見せるための施設で、舞台と客席が常設しているもの。
演芸場	落語などの大衆芸能を見せるために設けられた施設。寄席。
多目的室	多目的に利用可能な、舞台や客席が常設していない施設。
飲食店	飲食料品を提供し飲食できる店。
小売店	飲食店以外で、品物を売る店。
寺社	寺院と神社の境内。
その他	上記以外の場所。ホテル、屋外、特設ステージなど。
不明	会場の様子が確認できなかったもの。

江戸～昭和時代の落語が演じられた場の歴史は、以下の書籍を参考に整理した。

- 「江戸話芸の成立—落語について—」比留間尚/国語と国文学/1957年6月
- 「化政期の寄席興行」関山和夫/芸能史研究/1967年7月
- 「寄席見世物雑誌」関山和夫/株式会社名古屋泰文堂/昭和43年11月5日
- 「寄席の変遷」比留間尚/国文学解釈と教材の研究/1973年3月
- 「日本の古典芸能第九巻 寄席」藝能史研究会/株式会社平凡社/1981年9月20日
- 「図説 | 落語の歴史」山本進/河出書房新社/2006年5月30日
- 「上方演芸大全」大阪府上方演芸資料館(ワッハ上方)/2009年3月10日

4. 落語の場の変遷

17世紀頃

落語は江戸や上方ではじまり、最初は寺社の境内や街頭などの屋外で演じられていた。

18世紀頃

江戸では料亭の座敷や民家の空き家などで、上方では神社の境内の小屋で演じられるようになる。1798年ごろから、料物をとる町屋での落語の興行(寄席興行)が始められる。

19世紀頃

落語が常設の寄席で行われるようになる。江戸時代末期の標準的な寄席の規模は、定員100人くらいのこじんまりとしたものであった。

江戸・上方のほか名古屋でも寄席興行が盛んになる。

明治になると落語は東西ともに最盛期を迎える。

20世紀頃

1923年、関東大震災によって大部分の寄席が焼失、倒壊し、震災後厳しくなった建築規制のもとではほとんどが再建不可能になる。太平洋戦争によって、多数の寄席は焼き払われる。戦後になると通常は落語の公演を行っていない劇場やホールで落語会(ホール落語)が開催されるようになる。

5. 現在の落語の場

東京都の特徴

会場の合計は1,100件であった【図1】。

飲食店の割合が大阪府や愛知県に比べて高い【図4】。居酒屋、レストラン、日本料理店、喫茶店、ブックカフェ、ライブバーなどがあつた。

その他には、博物館、美術館、図書館、銭湯、ホテル、結婚式場、美容院、複合商業施設のイベントスペース、庭園、福祉施設、オフィス、葬儀専門の式場、屋形船、電車の中などがあつた。

愛知県の特徴

会場の合計は171件であった【図2】。

他の都市と比べると劇場・ホールの割合が高い【図4】。劇場・ホールで行われる独演会などのホール落語が多く開催されていることがわかる。

その他にはホテル、結婚式場、動物園、美術館、庭園、ショッピングモール内の特設会場などがあつた。

大阪府の特徴

会場の合計は280件であった【図3】。

他の都市と比べると飲食店の割合が低い【図4】。その理由は大阪府で口演されることの多い上方落語は、三味線や太鼓などが入るハメモノ入りの落語が多くあり、飲食店ではハメモノを演奏するスペースを取ることが難しいからではないかと考える。

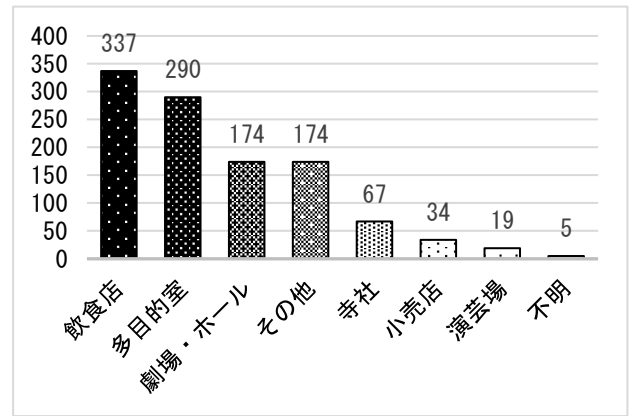
また、他の都市に比べて寺社の割合が高い【図4】。江戸時代、大阪坐摩神社で落語寄席がはじまり、それ以降各寺社に多くの寄席ができたという上方の落語寄席の成り立ちに関係するのではないかと考えられる。

その他には教会、病院、旅館、理容店、銭湯、図書館、資料館などがあつた。特徴的な例としてコンビニのイートインスペースがあつた。

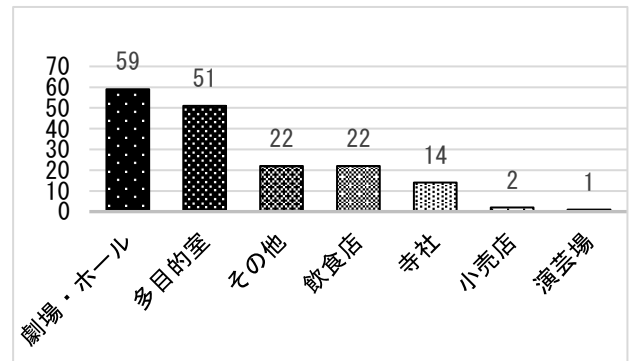
6. まとめ

落語は、街頭や寺社などの屋外から、座敷や貸席などの室内へ、そして寄席という落語を興行するための空間へと演じられる場が変化した。戦後になると寄席のような小規模な空間だけでなく、劇場や多目的ホールのような広い空間でも演じられるようになる。そして現在は、寄席や劇場ホールのほかに、飲食店や小売店、電車の中や病院、コンビニのイートインスペースなど意外な場所でも行われている。

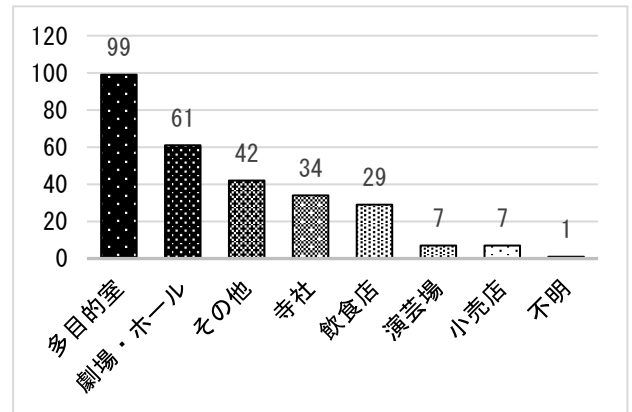
落語は、寄席などの伝統的な空間を残しつつ、身近な飲食店、意外性のある空間にも広がっている。



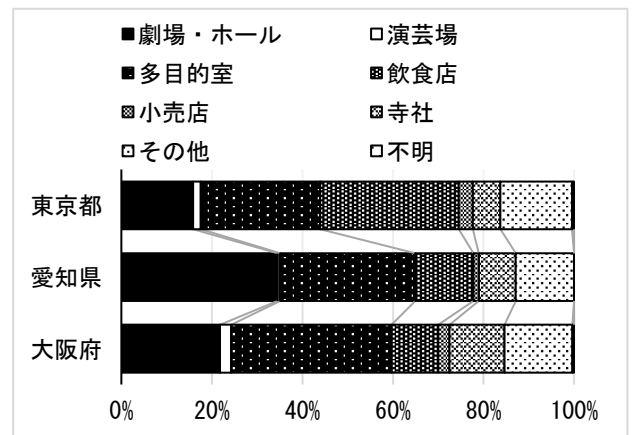
【図1】 東京都の会場（件）



【図2】 愛知県の会場（件）



【図3】 大阪府の会場（件）



【図4】 各都市の割合比較